

令和5年度第2回鶴岡市都市計画審議会

- 日 時
令和6年1月16日（火）午後1時30分から午後3時15分
- 会 場
鶴岡市役所 6階 大会議室
- 次 第
 1. 開会
 2. 挨拶
 3. 定数報告
 4. 会長選出
 5. 説明
(1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの中間案について
 6. 報告
(1) 都市計画に関する事業について
 - ① 茅原北土地区画整理事業について
 - ② 鶴岡都市計画道路（蛾眉橋豊浦線・道形黄金線）の変更について（山形県決定）
 - ③ 庄内南部圏域都市計画区域マスタープランの変更について（山形県決定）
 7. その他
 8. 閉会
- 出席委員
上野雅史委員（会長）、南波純委員、菅井巖委員、黒井浩之委員、佐藤博幸委員、佐藤久樹委員、本間新兵衛委員、村山秀樹委員、栗本直美委員、阿部俊夫委員、工藤久子委員、鈴木之委員（代理）、山之内弘幸委員、塚本高弘委員（代理）、佐藤亨委員
- 欠席委員
早坂誠司委員
- 市側出席職員
建設部長、都市計画課長、土木課長、建築課長、都市計画課主幹、都市計画課都市計画主査、都市計画課都市計画係長、都市計画課都市計画専門員、都市計画課専門員、都市計画課主事
- 公開・非公開 公開
- 傍聴者の人数 0名
- 概 要
 1. 開会（進行：都市計画課主幹）
 2. 挨拶（挨拶：建設部長）
 3. 定数報告
 4. 会長選出
 5. 説明（議長：上野会長）

(1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの中間案について

会長

それでは次第に従いまして、まず事業説明に入りたいと思います。鶴岡市中心市街地活性将来ビジョンの中間案につきまして、これは都市計画法に基づき本審議会へ意見聴取を求めるものではありませんが、鶴岡市の都市計画に関わってくる事業でございます。委員の皆様からご質問やご意見を頂戴し、ビジョン策定の参考としていただきたいと思います。提案につきまして事務局より説明をお願いします。

(説明：都市計画課長、都市計画課都市計画専門員)

会長

この場では特に決めるとかそういったわけではありませんが、それぞれお感じになったことをご意見ということで頂戴したいと思います。忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

委員①

まず1点目にこの資料の資料右上に、鶴岡市と鶴岡商工会議所が令和5年12月19日という、この意味は市と商工会議所の方で、事前に打ち合わせして、その資料を私どもに提示しているということになるかと思います。そこを確認したいです。先ほど会長の方からあった通り、市民のワークショップ延べ114名とか、ワークショップで高校生215名とか、アンケートにも受講生が2,500名以上ということで、そういった意見が反映されている特徴的なことがここに書かれています。その辺についてもう一度確認なのですが、若い人たちからの意見で、どういうところが主に中心に反映されているのかなということに関心があったものですから、お聞きしたいと思います。あと、やはり今、能登の問題があって、中心地の居住のいわゆる狭隘なところでの災害というところに備えた、中心市街地特質の地域内防災、その辺の観点はどこに持っていくのかということと、大雨とか、そういったところの防災、排水対策。地域内のこの辺の域内は、結構そういう課題がある地域なものですから、そういった課題が中心市街地のビジョンにどう位置付けられるのか。その辺何かありましたら教えていただきたいと思います。

事務局

1点目の、この資料の右上に令和5年12月19日、鶴岡市・鶴岡市鶴岡商工会議所と書いてあることの意味ですが、この中心市街地将来ビジョンを策定するために、鶴岡市と鶴岡商工会議所が事務局となって、ビジョンの策定委員会というものを開催しております。この12月19日に第2回の策定委員会を開催いたしまして、その際にお示しした中間案、それと全く同じものを本日皆様にもお示ししているということでございます。そういう理解でお願いいたします。それから若い人の意見というのは後でお答えさせていただきますが、三つ目の中心市街地の中で、その防災という観点のお話がありました。最もなお話であろうと思いますし、五つの将来の姿のうちでは特に居住のところに関わってくるところだと思います。資料の2枚目をご覧くださいのですが、居住という欄の下の一歩下の欄で、豪雨災害等への備えとして、内川の整備についてもこれは気をつける必要があるのではないかなというようなご意見がございましたし、今いただいた防災という観点でも検討して参りたいと思います。

事務局

中学生、高校生アンケートにつきましては、市の各種計画の策定、若者・子供施策の参考とするという目的で調査を行っておりまして、市内の中学校高校生、通学する生徒学生さんから、7,235名を対象にオンライン調査を行いまして、回答率として35.3%、2,552名からご回答をいただいております。高校生から、設問の中で、主に放課後や休日の利用場所とか、利用目的という点をお聞きしたところ、やはりカフェ、ファミレスですとか、待合スペース、フーデバーといった回答が多く、友達とおしゃべり、勉強、スマートフォン・パソコンで今いろいろ見たりするという回答が多くございました。居場所ということで、勉強ができる、自由に過ごしたい、ゆっくりいたいというような居場所についての回答が多く、そこには無料のWi-Fiの環

境だったり、電源のコンセントであったり、集中して居られる空間、図書館などについても本を読むだけではなくて居心地のよさというものを求めているというのが、アンケートの中では見て取れたというところでございました。ありがたい町の将来の姿、特に居場所という点において、強く反映しているところと考えております。

委員①

学校が集中しているわけですので、そういった意見が非常に多いということもわかりますし、子供たち、生徒も希望に沿えるような町づくりにしてほしいというのはあります。ただ気になるところは、1 ページの中心市街地の右上の括弧書きのところに、人口密度を高めていくということが中心市街地にあるということで、対比して郊外地とか、旧町村のところのところはどう位置付けていくのか。左上には多極ネットワークと書いていますが、人口密度を高めていくことについて、空き家も増えており、今後、その空きスペースの生かし方、防災の生かし方とか、多面的に考えたほうがいいと私は思っていました。人口密度を高めていくというのは、近年、マンションの売り出しもいろいろみえていますけれども、ああいった形で密度を高めていくことはどうかというのは疑問がありました。

委員②

今回初めて審議会に参加で資料を見させていただいて、わからないことが基本的にたくさんありましたので、これまでの議論の経過を含めて教えていただきたいと思います。まず、概要版を見させていただいた時に気になったこと、違和感というのが、ありがたいまちという言葉です。普通、例えば、住みたいとか住みたくなるとか、或いは訪問したいとか移住したくなるようなまちというふうな表現になると思います。それがストレートに、いわゆるありがたいまちになるのだと思うのですが、それがありがたいまちということでストレートさがなく、かえってわかりにくいと思いました。ありがたいということを、あえて使った経緯とか理由を教えてくださいたいのが1点目です。

二つ目。先ほども同様のことがありましたが、背景として、多極ネットワーク型まちづくりということで、具体的に1番から5番まで、5つの案を提案されていますけれども、この5つは相矛盾するところもかなり出てくると思います。

例えば、観光を重視するということと、鶴岡は城下町ですから、城下町は狭隘な道路が特徴なわけで、それを街歩きすることは、一つの大きな観光都市の売りになると思うのですが、狭隘さとか、その道路がわかりにくいということをやめてしまえば、観光の特色がなくなってしまうということもあると思います。

或いは、高さ制限や景観を大事にするのか、居住性、利便性を大事にするのか、様々な矛盾したものが出てくるでしょうし、本当にいろんなことがこの5つの中で、果たして共存してやっていけるのか、或いは両立をどうするのか、そういったことについてあまり指摘がなく、かえって矛盾して中途半端になってしまうのではないかというふうな感じを受けました。

優先度とかコンセプトをより明確にして、鶴岡をこういう町だから、ここを優先的にまちづくりしていくというような考え方、コンセプトをはっきり打ち出さないと、非常に中途半端なまちづくりになるのではないかなというふうに考えています。

もう1点は、都市計画ということで、主にハード面が多いわけですが、いろんな都市の再開発とかを実際に見てきましたが、ハード面を先行するために、その中身が伴わないことでソフト面が伴わないものですから、それが生かされていないという町がかなりあります。そうすると、ソフト面での制度、市のいろんな行政制度と、どうやってリンクさせていくのかということがないと、いわゆる箱物だけが残って、中身がないということも今まであるので、ソフト面との共存、連携をどうやっていくのかというような提案も必要なのではないかなと思います。

事務局

1点目、ありがたいまち、こういうワードを選んだ経過、理由ということでありますが、ここに5つの柱がある通り、町には住むという側面もありますし、外から訪れていただく観光で訪れ

ていただく側面もありますし、商業などという側面もあります。いろいろな側面がありますので、例えば住むということとか、例えば観光だけということではなく、鶴岡のまちには様々な多面的な意味合いがあります。そういう意味で、ありたいまちという少し包括的な言い方を使わせていただいたということでもあります。そういうふうにご理解いただきたいと思います。

二つ目ですが、ここに今まさしく、ありたいまちの将来の姿で、5つの観点を挙げておりますが、相矛盾する項目もあるのではないかと考えています。それもおっしゃる通りの部分もあると思います。それはどういうことかという、一つのことに突き詰めすぎると片方が多分もう一つが立たなくなるということもあろうかと思っています。従って、あまり答えになっていないかもしれませんが、やはりバランスということであると思います。例えば、ゾーンという考え方を持ち出して、このエリアではこっちを重視するけれどもこのエリアではこっちを重視するとか、そうしたことを決めているわけではありませんが、一方でそういうこともあるかもしれませんし、バランスを取っていくべきだろうということは、委員のご指摘の通りだろうと思います。

三つ目であります。ソフトを伴わないようなものは、まちづくりではないということについて、この中心市街地の将来ビジョン、来年度策定する中心市街地の活性化基本計画。これは必ずしもハード整備だけではなくて、ソフト事業もたくさん盛り込む予定であります。この概要版の一番下の欄のクリーム色のところ、想定する取り組み例というところですが、図書館整備、歩行者空間の整備のようなハード事業はもちろんありますけれども、多様な店舗の新規出店や事業承継、起業創業へのチャレンジ支援であるとか、市内循環バスの利用促進であるとか、そういったハードに関する取り組みもあわせて一緒に考えて盛り込んでいきたいと思っております。

委員③

農学部では、農と食をキーワードに教育研究を行っておりまして、昨年からは、研究にとどまらず、まちづくりに関わりたいということで、これまでスマートテレワールプロジェクトって食糧需給圏のプロジェクトをやってきましたが、それを基盤としたスマートテレワールシティ構想というのを打ち出しております。ぜひ鶴岡市さんとも一緒にまちづくりに、これから処遇を基盤としてやらせていただきたいと思いますというのが一点です。

また、農学部の1年生は山形市にいますが、2年生から4年生まで、それから大学院生まで含めると600名ぐらいの学生がいます。鶴岡市の出身は多分10名ぐらいなので、600人が市内の人がここに若者が来るっていうそれだけでも結構若者でにぎわうまちを考えた場合は大きいので、ぜひ農学部の学生と関わるようなまちづくりをやっていただきたいと思いますというのが二つ目です。

それから、学生に限らず今農学部留学生が60人ぐらいいます。大学の中では一番留学生が多い学部で、国際交流に力を入れているので、留学生或いは若者を交えたまちづくりにすると、何か面白いことができるのではないかなというふうに思いますので、どこかで何かその辺を反映させていただければというふうに思います。

事務局

大変ありがとうございます。農学部というこの鶴岡市における大切な資源、資産をまちづくりの観点でも十分生かし切れるように、我々も取り組んでいきたいと思っております。

学生さん、留学生を含めていらっしゃるということですが、市民ワークショップ、ビジョンの中間案にたどり着く間に、ワークショップもしておりますが、ワークショップに大学生からご参加いただいたり、中には留学生もいらっしゃるのかなと思いますが、外国籍の方、鶴岡にいらっしゃる方のご意見を伺いました。

駅前ではまちづくりをしているアジトという社会実験をご紹介いたしましたが、アジトというところは、高校生の居場所ということなのですが、そこにお兄さんお姉さん役として、大学生が常駐するという取り組みをしておりまして、その大学生のバディと呼んでおり4人いまして、4人のうち、3人は確か山大農学部の学生さんで、高校生に一人暮らししてこんな感じだよとか、将来の夢についてどう思うかということ、大学生と一緒に語らう。そんなすてきな場所ができていて、そこに山大農学部の学生からも真剣に取り組んでいただいているところで

す。ありがたく思っており、これからもよろしくお願いします。

委員④

私からは一つ伺いたいのですが、この中心市街地の将来ビジョン、概ね 15 年後のことです。15 年後のありたいまちということで、この 15 年後といいますと 2039 年から 2040 年です。そうしましたら、2040 年というのは一つの非常に大きな、それまでに至るファクターがあるわけですね。人口減少ですね。人口減少については、2040 年から、2050 年までが急激に人口減少がまた進むと、人口全体が 8 万を切るのではないかというデータも出ています。そうしますと、この将来ビジョンを作るときに、過去から現在、そしてそのまた延長線上に将来を描いても、この大きなファクターは果たしてどうなるのだろうかを考えるわけです。そうしたときに、この中心市街地将来ビジョンを中間でお作りになっていただいたこれまでの過程の中で、人口減少が急激に進む、またそれに伴う少子化や高齢化が進む、こういったことを考慮されていたのかどうか。また、これから考慮する一つの要素としてそれが考えられているのかどうか、伺いたいと思います。

事務局

15 年後のありたいまちの姿を描く上で、人口減少どのようにとらえているかというご質問かと思えます。委員ご紹介の通り、国立社会保障人口問題研究所が推計を出しておりますけれども、令和 2 年の国勢調査ベースで推計出ておりまして、2045 年で 8 万 4,000 人と鶴岡市が出ております。前回調査が平成 30 年。そのときは 8 万 9,000 人。前回調査と比べて 4,700 人、約 5,000 人、さらにこう加速人口減少が加速している推計が示されています。その辺りも含めて、今回お示ししたのがと概要版になっておりますけれども、これを作るにあたっては、現状把握ということを行っておりまして、データの的に市全域の人口の推移をそういうふうには減少していくと、中心市街地においても 2040 年には約 26%減少する見込みであるというところを踏まえて、このありたいまちの姿の検討をスタートしております。従いまして、来年度策定します、中心市街地の活性化基本計画。具体的な事業を進めていくことになってまいりますけれども、そういった優先順位や人口減少によつて的確な規模感ですとか、そういうことを十分に検討していきながら計画を進めていきたいと考えています。

委員④

そうしたことを考えられているということですが、この中間案を見る限り、そうしたことが、どこでどこにどうやって考慮されたのかは、見えにくいところがあると思います。そうしたことも意識しながら、視野に入れながら、将来のビジョンはこういうふうな要素があるので、それをまたそれに向けて、どうこのまちづくりをしていくか、いうことのキーワードとして、ぜひどこかにあった方がいいのではないかと思います。大きなテーマの中の一つの要素ですので、そうした意味では、どこかに書き込んで欲しいというのが私の意見です。

会長

計画を作ると、どうしても右肩上がり、バラ色の計画になってしまいがちで、現実というのは、きちんと見定めたいと、身の丈にあった計画、そういう意味で、今回の案は、いろんな皆さんの意見を取り上げて積み上げた結果がこういう形だということです。先ほど優先順位がありましたけれども、優先度がちょっと見えにくい部分があるのかなと思います。これから第 3 の中心市街地活性化計画を作るわけですが、どの部分をこの先重点的にやっていく。そこをはっきりさせていく必要があるのかなと思います。全部やろうとしても無理ですので、どの部分に重点を当てるのか、ある程度はっきりした方がいいのかなと思います。

委員⑤

今のビジョンの地図を見ていたのですが、エリアの 150 ヘクタールは広大です。やはり駅前、先ほど課長からもあったゾーニングをはかって、そこの中から出していく。そしてそれをつなげるために、やはり歩いて楽しい、アクセスをどうするか、或いは集って楽しい、それはどう

するか。或いは高齢者がどんどん増えてくる中で、高齢者もどう交流を図っていけるのか、などといった、今とは違う、これから 10 年先 20 年先のビジョンになれば、高齢者は間違いなくまたピークを迎えるのですが、増えていることは間違いのないわけであります。その視点も一つ必要かと思っています。いずれにしても、駅前と文教地区というこの地区、史跡地区、どうやってゾーニングをするかというのは難しいと思うのですが、その地区の特色というのを出すべきだと思っています。駅前については様々な議論をこれからされると思うのですが、可能性のあるエリアであるということは間違いのないと思いますので、そこにウェイトをかけた形で、全体のこの 150 ヘクタールをどう繋いでいくのか。くどいですがけれども、やはり歩いて楽しいまちというのが、大きなコンセプトだと思います。鶴岡の人をよく見ると 200m、300m でも車で移動する、歩かない。ですから、やはり、歩く。そこには内川もあるし、いろんな題材があるので、そこを上手く使って、歩いて楽しいまちというのは一つ大きなコンセプトとしてあげただく、或いは集って楽しい、交流して楽しい、この二つが大きなポイントになるのだと思っています。

一方で、この地区は、空き家も増えているのではないかと。数字はわかりませんが、そうした地区から離れていかなければいけない。その人達をこの地域にどう居住させていくのかが、非常に難しいポイントだと思うので、どうやってこの地域で住むことで、より安心が得られ、楽しさを生むことができるのか、大きなビジョンを作っていかないと、居住での引き込みは非常に難しい部分です。実際、現実に出て行きますので、やはりそれを引き戻す、非常に難しいことをやらないといけないとなれば、そこにも非常に大きな課題があると思うのですが、その辺の見解、まだこれから練らないといけないと思うのですが、考えがあればお聞かせください。

事務局

最初にゾーニングの部分については事務局でも考えてまいりたいと思います。歩いて楽しいまち、集って楽しいまち、これが大切なコンセプトではないかというご提案でありました。

私どもも考えているこの 5 つの項目の中で、例えば歩いて楽しいという観点で言いますと、このにぎわいだとか、観光というエリアがまさにそういうことを含んでいると思いますし、集って楽しいというのは、2 番目の項目である居場所というところです。おっしゃる通り、市民の皆さんのご意見、アンケートを事業者の方々の声。そういったものを集約していくと、歩いて楽しい、店舗、そういう市街地を望まれる声が多いようですので、そうした方向でも進めてまいりたいと思います。

最後に、空き地空き家、居住に関することです。これは本当に悩ましい問題で、行政ができることにはもちろん限りがあるわけですが、いろいろな施策を打つこと。それによって何かしらを成す。相当なペースで空き家がやはり増えてしまうという状況で、直近の令和 2 年度の調査で、空き家は約 3600 棟あるとされました。次の大規模調査は再来年、令和 7 年を予定していますが、さらに増えているのではないかと危惧しているところです。明確にここで空き家についてどうするというのをうたってはいいのですが、居住のところで想定する取り組み例ですが、狭あい道路の解消を図りながら、小規模を再編、土地を再編し、居住を促していくであるとか、新築戸建を促す宅地供給の仕組みを構築するであるとか、様々な中心部に居住を取り戻すための施策は、委員のおっしゃる通り、打ち出していないと駄目だと思っています。

委員⑤

空き家がやはり問題で、どう解決していただいたらよいか、市、行政側とも話しておりますけれども、なかなか進み具合が遅い。私も都市計画審議会委員で、平成 21 年に初めて参加させていただいて、もう 10 何年、このメンバーの中では最古参という形ではないかと思っております。私が 17 年間いるうちに、鶴岡市のビジョンとしての大きいものとしていわれていたのは、コンパクトシティプラスネットワークという言葉であります。鶴岡市は先進地であり、いろいろな視察を受けたり、政策に入ってどんどんやってきたのではないかと思います。コンパクトシティプラスネットワークというのが、ここ何年間かで、いろいろな委員会でも最近は出てこなくなってきたということだと思います。それがなぜなのかなというのを事務局の方にお聞きしたいのが 1 点です。

ビジョンなわけですので、細かいところはこれからの議論だと思いますが、ビジョンの背景の一番上に、多極ネットワーク型まちづくりという言葉が出ております。先ほど話したような、コンパクトシティプラスネットワークというのは、今鶴岡みたいな、都市型ではない、どちらかという、郊外とか、市街地から外れている地域の自治体のほとんどがコンパクトシティプラスネットワークという言葉を使っているのも聞いております。山形県の都市計画審議委員もやっていますので、他の自治体はもうほとんどがコンパクトシティプラスネットワークで動いています。最近、鶴岡は逆に使わなくなっている。プラスが、今は多極ネットワークという言葉が出てきて、このビジョンの一番中心にきているのがどうなのか。多極というのは、何なのかというのを教えていただければと思います。この一番の、にぎわいから医療までの5番が多極なのか。背景に書いてある、地域交通、公共交通等で結ぶ多極ネットワークということは触れてありますので、場所を表しているのかなという感じはしなくもないのですが、多極というのは何を表しているのか、教えていただければと思います。

事務局

多極ネットワーク、ネットワーク型のまちづくりという言葉を使っています。この多極ネットワークというのは、国によりますと、コンパクトシティの1類型ということで分類されているようであります。コンパクトなまち、鶴岡の中心市街地だけがコンパクトにまとまって栄えていればいいという考え方ではなく、地域、例えば藤島の中心部であるとか、温海の中心部であるとか、そうした各地域にも局があるだろうと思います。その多くの局、中心部の局も、地域の局も含めて、それぞれの局がそれぞれにコンパクトになりつつ、かつ、その間の移動がしやすいネットワークで結ぶというようなことで、この多極ネットワーク型のまちづくりというものを使っています。従って、この多局というものは、例えば、にぎわいのある場所や拠点のことではなく、あくまでも鶴岡市の中のエリアの話であります。コンパクトシティプラスネットワークの類型として、国交省の方でもいくつか挙げている中の一つとして、多極ネットワーク型というのがあります。言葉として、コンパクトシティ施策を放棄したということではなく、皆様にわかりやすく、本市に適した類型である、本市の土地、地理的要因、そうしたことから見て、本市に適した多極ネットワーク型というものを積極的に使っているというところでございます。

委員⑤

基本的には、やはりコンパクトシティプラスネットワークですので、以前はコンパクトシティプラスネットワークで、鶴岡市は全国でも先進地と言われ、視察に来る方がたくさんいたわけですが、最近はどうかということもあります。やはり、コンパクトシティプラスネットワークの他の類型も、多極ネットワークという形で進めているのであれば、コンパクトシティプラスネットワークを第一次に上げ、その中に類型があるという形で示した方が、国交省の中でも通じる言葉ですので、国からの支援を受けるうえでも、こちらの方がいいのではないかと思います。ぜひその辺も検討していただければと思います。

会長

多極ネットワークという、具体的に、例えばさっきいわれたその藤島だとか温海だとか、そこにも局があって、そこ、鶴岡の中心地といろんな局があって、それをネットワークでつなぐというそんなイメージになるということですか。

事務局

そういうことです。鶴岡の中心部だけが都市機能が集まって発展すればいいということではなく、それぞれにそれぞれの局があって、そこをネットワークでつなぐということです。

会長

今はマスタープランの中では、コンパクトシティ鶴岡という言葉使っていますが、県ではど

うなっているのか、コンパクトシティという概念は残しているのか。

事務局

残しています。先ほど申し上げた通り、コンパクトシティというものと、多極ネットワーク型まちづくりというものは、全く相反するものでもなく、コンパクトシティの1類型として、多極ネットワーク型というものがあるということです。鶴岡市の場合は、合併もいたしました。旧鶴岡市の旧藤島、旧羽黒町という、それぞれの町の中心とおぼしき部分があります。それも一つの局でありますし、中心市街地の一つの局であります。例えば、大山も一つの局になっていると思いますし、温海の中でも温泉街だけじゃなく、鼠ヶ関も一つの局になっています。そうしたいくつかの局がネットワークで結ばれているということで、それがコンパクトシティと相容れないものではなく、むしろその一部であるという考え方であるというふうに理解いただいております。

委員②

先ほどの説明で誤解をしていたと思ったのですが、この資料の中に、例えば今回中心市街地ということですが、この資料の中にあるサイエンスパークについて、サイエンスパークは鶴岡の特徴的なエリアとして、全国にいろいろ知らしめているわけです。中心市街地にサイエンスパークはここに入っていないわけですし、他の様々な鶴岡の局となり得るエリアであるとか、観光地であるとか、そうしたところと中心市街地との関係性を示すものがないと誤解をしてしまうのではないかと思います。鶴岡は東北地方で大きい面積ですが、大きいなりにいろいろな局があり、その中の中心市街地の位置付けはこうであるとか、サイエンスパークの機能は中心市街地の中でどうであるとか、そうしたものがないと分かりづらいし、中心市街地だけのものになって、それぞれが皆バラバラになった鶴岡全体の計画になりうるのではないかと思います。そこはどうでしょうか。

事務局

多極ネットワーク型のまちづくりについて、鶴岡市の都市計画の基本方針であるマスタープランは、かつて都市計画審議会でもご議論いただいて策定した都市計画のマスタープランで、その中にも、この多極ネットワークを示す図が載っています。委員がおっしゃった通り、いろいろな局の関係性を示している模式図にはなるにですが、こうしたものを示しながら、多極ネットワーク型のまちづくりは、どういうものなのかということも説明しながら、その中で、今回はこの中心局であるこの中心市街地のビジョンであるよということの関係性、十分に説明したビジョンにした方がよろしいというご意見です。今回は、皆様にご議論いただきやすくするため、そのポイントをわかりやすくするため、概要版ということでお示ししましたが、実際にはこの概要版というものも最終的にはそのまま残すと思いますが、冊子として、文字に表せるそういうビジョンを作る予定ですので、その中でも、今あったようなことをふまえて検討させていただきたいと思います。

会長

ぜひ盛り込んでください。お願いします。

委員⑤

今の要約版、私も記憶にあるのですが、再興計画の要約版だと思います。再興計画の中には、マスタープランと立地適正化計画というのがあります。その中のコンパクトシティについて、審議会委員のメンバーの方々も、再興計画とか、立地適正化計画をおわかりかどうか。ぜひ事前に、審議会委員の皆さんに資料をお渡ししていただいて、やはり延々と繋がる政策であるべきだと思っておりますし、このコンパクトシティプラスネットワークというものは、鶴岡市のためになる有効な政策の一つだと思っております。ぜひこれをこの鶴岡市中心市街地将来ビジョンにも反映していただくような形でお願いできればと思います。

事務局

今、委員からご提案のありましたことについて、鶴岡市都市再興基本計画は、都市計画のマスタープランと立地適正化計画をあわせ持ったものですが、この冊子を、後程皆様にお送りしたいと思います。わからないところがありましたら、ぜひ問い合わせいただければと思います。

委員⑥

今コンパクトシティプラスネットワークの話も出たので、後でご報告あるようですが、今日配付されている資料の、鶴岡都市計画、余目都市計画、三川都市計画区域の整備開発保全の方針という、いわゆる鶴岡南部圏域の都市計画区域マスタープランというものがあります。1枚開いていただいて、基本的な考え方の第3のところに、広域的な都市計画区域のマスタープランということで、概念図が示してありまして、おそらく鶴岡市さんもおっしゃっている鶴岡市のマスタープランも、この都市計画区域マスタープランに即して作っていらっしゃるの、同じような考え方をされていると思うのですが、その第3の概念的な図面に示している通り、町中の魅力向上とコンパクトなまちづくりということで、市街地の部分、一番上に赤く表示されているところがあり、これが今ご説明あった、旧鶴岡市の中心市街地活性化計画を作っているエリアに相当する考え方なのかなというふうに思われます。鶴岡市の中でも、集落ということで、黄色で示しているようなものがあしめますけれども、こうしたものが、先ほどの説明の中で、旧藤島町の中心地であったり、旧温海町の中心地であったりするというふうに思います。鶴岡南部となると、その下の部分にもなりますが、もともと鶴岡市は合併して大きくなった市なので、市単体の中でもこれと近いような考え方があるというふうに思います。

こうしたコンパクトなまちづくりと、地方の拠点、核のようなところを結ばれるお考えに対して、例えば、国道7号であるとか、日沿道であるとか、鉄道であるとか、県道であるとか、というところのネットワークを繋いでいくという考えを示されているところだと思います。17、18 ページのところで、主要な都市計画、こちらに主要な用途の配置方針に商業地、業務地などがある中に、例えば、鶴岡であれば、鶴岡駅前から本町地区周辺であるとか、大山湯野浜市街地、藤島駅前通り、温海地区、鼠ヶ関地区の記載があって、これがいわゆる今いってらっしゃる多極的な所の局に当たるのかなというふうに思います。北部のサイエンスパーク地区も、工業地ということで、この区域マスタープランの中に位置付けとしてございますので、鶴岡市の計画の中でそうしたものに記載されているのだらうと思います。イメージしやすいような資料があったので、ご紹介をさせていただきました。

会長

どうもありがとうございます。中心市街地の方はこれで仕切らせて頂きます。

6. 報告

- (1) 茅原北土地区画整理事業について
- (2) 鶴岡都市計画道路（蛾眉橋豊浦線・道形黄金線）の変更について（山形県決定）
- (3) 庄内南部圏域都市計画区域マスタープランの変更について（山形県決定）

会長

報告事項ということで、都市計画に関する事業について3点報告頂きましたが、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

委員⑦

茅原地区について、保留地処分の中で、12 街区が白になっていますが、これはどういう扱いになるのでしょうか。心配なのが、商業地の処分率について、2 区画の分についての進捗、どんな動きがあるのか。もう一つ、道形黄金線について、新たに 740m の変更の説明がありました。これについては、計画の幅員が 12m から今後 16m60 から 21m、相当広がる計画にされているようですが、場所は相当の民家がありますので、相当の事業費がかかるのだらうと思います。こ

れについて、大枠、計画の完了を大体この辺までは何とかしたいという計画があるのかなのか。その都度、県の方と話をしながら決めていくのか。その辺をお聞きしたいと思います。

事務局

それでは最初に茅原北地区整備事業の部分についてでございます。12 街区は白抜きになってございますが、この箇所は、組合としての保留地の処分地ではなく、地権者の方々の個人の所有地という形であり、組合で処分するということにあたらない箇所になっています。商業地について、9 街区 11 街区の、商業地 2 区画の処分は、現在処分している状況で、組合と事業者と売買に向けた協議調整中ということでお聞きしています。具体的にいつ頃までというところはまだ見えてこない部分でございますけれども、現在も事業者と話をしているというところではお聞きしています。

都市計画道路の部分について、今回の変更の区間につきましては、荘内病院のとぼり広場の交差点部分から八文字屋の交差点までが今回の変更区間ということでございます。一方で、資料下側の今の鶴岡市役所の方から、いわゆる税務署の跡地の部分までが、平成 22 年に変更区間ということで、先に都市計画道路の変更になって、現在工事に着手しているという状況かと思えます。現在の工事は、山形県の施行ということになりますので、予算、工事の着手の効果的な期間の検討を山形県のほうで考えながら、市のほうと協議しながら進んでいくと思っています。現在の市役所から工事している区間についても、相当の期間を要していますので、今の段階で何年までにとすることは申し上げられないと考えております。

委員②

上畑町に住んでいるので、この道路がかかるものですから、説明会の方にも出させていただきます。2 回目は出られなかったのですが、1 回目は、住民の方から異論とか、苦情が出て紛糾した会でした。例えば、県の説明が不十分であるとか、或いは、今行っている若葉町の荘内病院近くの方からもその対応がずさんであるという声も出たり、不十分な説明であったと思います。それで今 2 回目を行ったのだと思います。先ほど委員からあったように、果たしてこれが何年かかるのかということ、山大や八文字屋近くの方からは、もう何十年もやっているけれども一向に進みませんと。本当にそういうつもりですか、という質問を出されていましたし、今までこの工事に関わる方からいろんな意見が出されていたのがこの前の説明会だったと思います。ですから、今工期もわからないとか、幾らかかるかわからないというような、曖昧ですけども、やはりそこはもう少し具体的な計画とか、或いはこの説明会では、何件かその道路にかかる方が移転しなければならないのか、というようなことについても曖昧な答えであったとか、何か不満不信を抱くような説明会だと思います。やはり市からも同席していただいて、県の事業だからとかということではなく、もう少し誠実に対応していただきたいというのが、出られた町内の方々からの意見でした。決まりましたではなく、具体的な計画とか様々なことを予定で結構ですので出していただければと思います。町内からもそういう要望があったので、申し添えておきたいと思います。

事務局

1 回目、昨年の 3 月の末に第 3 学区のコミュニティセンターで説明会をした時には委員もいらっしやったと思います。その時は、事業の予定の路線について、図面などもスクリーンではお見せしたのですが、手元に残るような形ではなかったので具体性がないとか、図面が欲しいというような声があったのかなと思います。いろいろなご意見があったと聞いております。その結果、5 月に同じく 2 回目の説明会を第 3 コミセンでいたしました。その前段では、沿線の地権者の方々、事前に県と私ども市が一緒になって回らせていただいて、こういう計画です、こういうような都市計画の変更決定をしたいと思っているのです、という説明をさせていただいた上で、改めて 2 回目の全体説明会をコミセンで行ったということです。

2 回目の時は、特に混乱というものもなく、皆様非常に納得したといえますか、説明内容についてはご理解いただいたと考えております。ただし、実際その沿線の方々には、どれぐらいの土地が自分の土地がかかるのかということは、測量してみないことにはわからないので、それぞ

れの今後については、測量結果なども踏まえて、地元にも説明していきますし、地元の説明会、コミセンでやったようなものが必要であれば、それも県と市が連携して取り組んで参りたいと思います。引き続きご協力いただきたいと思います。

会長

どうもありがとうございました。他に何か後全体を通しましてご意見ございますか。それでは特に意見がないようですので、若干時間経過いたしましたけれども、本当に様々なご意見ありがとうございました。中心市街地につきましては今日いただいたご意見を踏まえまして、次のキャッチフレーズ、それから第三期の基本計画の方に、反映させていただきたいというふうに思います。

それでは議長をおろさせていただきます。どうもありがとうございました。

7. その他

事務局

ありがとうございました。

最後にその他として、事務局では特に準備ございませんが、皆様の方から特にございませんでしょうか。

それでは以上をもちまして、令和5年度第2回都市計画審議会を閉会させていただきます。

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。